

佐賀県訪問看護ステーション連絡協議会

派遣報告：セントケア訪問看護ステーション佐賀

山下優子

第 11 回九州在宅医療推進フォーラム in 熊本

テーマ 「在宅医療の未来を拓く」

令和 4 年 10 月 29 日（土）

市民公開講座 『最後まで自分らしく生きるために～リビング・ウィルを使って、人生会議をはじめませんか～』

講師：満岡 聡（佐賀県 満岡内科クリニック院長）

人は誰しも死にたいとは思わない。それは夢や希望があるからだ。もし夢や希望が失われ、気力や体力が尽きた時人は生きている意味があるのだろうか？生きている事が唯々つらい苦しみになるのではないだろうか？

今日のお話は正しくこの疑問に答えを見出してくれたそんな気がします。

高齢化社会において尊厳ある死を迎える事が大切と考えます。人間は誰しも死を迎える運命にありますが、延命治療が果てしなく続けられる中、苦痛に苦しむことはなるべく避けたいものです。

個人の自己決定権を尊重し、自分自身や家族が尊厳ある死を選択できるように政策的に支援することが必要だと思います。ただし、尊厳死に関する規定には慎重に取り組む必要があります。尊厳死に対する認識や倫理観が異なる人々に対し、説明や議論の場を設ける事も重要だと思います。

第11回 九州在宅医療推進フォーラム 熊本
テーマ「次世代へのメッセージ」在宅医療の学びについて考える
令和4年10月29.30日

セントケア訪問看護ステーション佐賀
橋本 桃花

②『かがやけ未来！～つたえる笑顔 つながる未来～』大江佑加子さん

患者さん・家族さん・スタッフの笑顔の為に在宅で出来る支援について話された。その為にもリアルを味わい体験していく事が1つのやり方であり、その為にも患者さんの生活背景や在宅で生活していく上で目標としている事について、しっかりスタッフが理解し、その目標に対してケアしていく。その結果、患者さんや家族さん・スタッフの笑顔に繋がっていくと話された。実際ケアしていく中で、具体的な在宅生活での目標など聞かずの事が多かった。今後は話を聞き、生活背景や目標をしっかり理解した上で関わり、よりよいケア・在宅での生活の質の向上に繋がるような介入をしていきたいと思った。

⑥『人生(命)が輝く瞬間に立ち会えて～託された想いを繋いでいく～』宮崎明子さん

患者さんの痛み・苦しみの軽減の為に医療従事者として、してあげられる事・実際にしている事について話された。痛みや苦しみの軽減はもちろん大切であるが、在宅で生活していく中で残された時間でやりたい事や大切にしている事について知り、それをスタッフ・他職種とケアしていく・叶えていく事が患者さんにとっての幸せであると話された。私たちが思っている以上に日常の当たり前な事が患者さんにとっては幸せな事になっていると理解し、その上で関わっていく事が大切であると学んだ。

⑦『在宅医療で地域を変える～穏やかに住む事ができる町への挑戦～』濱田努さん

在宅医療で地域環境・認知症になっても住みやすい地域を作りたい、現在の在宅医療について、在宅医療があれば幸せに暮らせると話された。最期は在宅で家族と過ごしたいという方が増えてきているからこそ、在宅で最期を迎える事が出来る為にも在宅医療が必要になってくると思った。医療従事者が在宅医療を受けながらの生活を勧めても、長期間関わるのは家族さんであり、そこへの配慮は必ず必要となると話された。在宅で最期を安心して過ごしてもらおう為にも、患者さん・家族さんの思いを知り、関わっていく事が大切だと思った。